

神奈川県作業療法士会ニュース154号 目次

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 巻頭言 | 9 各部からのお知らせ |
| 2 第1回神奈川県臨床作業療法大会開催報告 | 10 地域リハ部のページ |
| 3 第4回定期総会報告 | 12 理事会抄録・求人広告 |
| 4 東日本大震災 被災地訪問レポート | 14 講習会案内 |
| 6 OTのためのIT講座 (第13回) | 15 ヨコハマ・ヒューマン&テクノランドのお知らせ |
| 8 ひよこ通信 最終回 | 16 青年海外協力隊体験記 (第8回) |

巻頭言

第14回県学会 演題募集

演題採択委員会委員長 国際医療福祉大学 窪田 聡



第14回神奈川県作業療法学会演題採択委員会委員長の窪田です。県士会ニュースや県学会公式ブログ等でお知らせしている通り、2013年に国際医療福祉大学小田原保健医療学部で第14回の県学会を開催致します。現在我々は菅原洋子学会長のもと、準備を進めております。今回は巻頭言の場をお借りして、演題募集についてをお願いをさせていただきます。

神奈川県作業療法士会の会員数は毎年順調に伸び、現在では1700人(2011年現在)を超えています。またその中で臨床経験年数が1～5年目の若手の先生方は700名弱に上り、会員全体のほぼ40%に達しています(第4回神奈川県作業療法士会定期総会議案書より)。そういった意味では若手が多く集まる将来性のある組織と言えるでしょう。そして、その若手を育成していくことが県士会の役割の一つでもあります。若手会員の中には、もっと勉強したい、自分はこれでいいのだろうかとお悩みの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。第14回の学会はそんな若手の気持ちに答えることのできるような学会にしていきたいと思っています。是非、若手の皆さんに発表していただき、ご自身の作業療法実践の場に生かしてください。我々実行委員も気兼ねなく発表でき、建設的な議論が出来るサロンのような環境を構築していく所存です。もちろんベテランの先生方の応募もお待ちしております。若手の育成にはベテランの先生方の助言が大切です。自分はこんなことを研究、もしくは実践してい

てこれまでの研究結果や成果を多くの作業療法士に知ってもらい役立ててもらいたい、とお考えの先生方もいらっしゃると思います。是非この学会でご発表いただき、神奈川県の作業療法の発展にご尽力ください。本学会のテーマは「つなげよう過去から未来へ」となっております。これはまさにベテラン作業療法士と若手作業療法士の連携、相互の交流がなければ成し得ないことではないのでしょうか。そんなつながる場になるよう、皆様どしどしご応募ください。また発表だけでなく、ご参加いただき議論に参加していただくことも必要不可欠です。主催者、発表者、参加者で協力しあってつながる場にしていきたいと思っています。

なお、本学会では基本的に口述発表での募集となります。演題登録についてはメールで行い、演題募集期間は8月頃～11月頃迄を予定しています。詳細については、近々ホームページや県士会ニュースでご案内致します。皆様のご応募お待ちしております。



学会会場国際医療福祉大学小田原キャンパス

第1回神奈川県臨床作業療法大会 開催報告

さる平成24年4月15日日曜日、神奈川県立保健福祉大学講堂において、記念すべき第1回神奈川県臨床作業療法大会が開催されました。当日は日曜日にもかかわらず参加者は312名にのぼり、19の症例報告と活発な質疑応答が行われ、大変盛況な会となりました。



大会会場となった神奈川県立保健福祉大学講堂

本大会は、大会長の鴻井建三氏を中心として横浜市立大学附属市民総合医療センターのスタッフ6名が実行委員として準備を進めてきました。第2回大会以降の開催を引き受ける職場のモデルをつくるという意図から、運営予算、大会規模ともなるべく簡素化し、準備に時間をかけないような工夫がなされたそうです。簡素化のため、①ワンホール開催、②機器展示なし、③学会テーマなし、が条件として設定され、症例報告中心、公開講座（講演）開催、という特徴も盛り込まれました。

このような条件にもかかわらず、発表された19の症例報告は、どれも質が高い内容であり、県内で働く作業療法士の実力を示すものであったと思います。比較的経験年数の少ない、若手OTによる発表が多かったのですが、ほとんどの演題は発表の構成やスライドもよくまとまっていました。また発表後の質疑応答も途切れることなく活発に行われ、参加者の理解をさらに深める結果になっていました。

グラクソ・スミスクライン社の共催で行われたランチョンセミナーでは、「脳卒中患者に対する作業療法と痙縮コントロール ～神経促通手技を含めて～」と題して、横浜市立大学附属病院リハビリテー

ション科 准教授 菊地尚久先生の講演が行われました。先生の豊富なボツリヌス治療の経験をとおり、具体的でわかりやすい講演を聞くことができ、受講者に好評でした。

大会の最後には、「大人の発達障害」と題して福島学院大学大学院教授の星野仁彦先生の特別講演が行われました。星野先生は、大人になった発達障害児について書かれたご著書で有名ですが、その内容も含めて長年にわたる臨床経験をもとに、発達障害についてパワフルな講演をしていただきました。講演では、発達障害のある成人は当初の予想以上に数が多く、「障害」というよりも脳の発達のアンバランスさが、かれらのさまざまな問題の原因になっている、と話されました。

以上のように、第1回神奈川県臨床作業療法大会は、参加した会員に多くの実りをもたらし、日々の臨床の糧になったと思われました。鴻井大会長はじめ準備をされた実行委員の皆様、発表された演者の方々、お疲れ様でした。第2回以降も充実した臨床作業療法大会が継続されることを期待します。



（文責：松本）

客席の様子
日曜日にもかかわらず、多くの参加者が集まった



ランチョンセミナーで講演された
菊地尚久先生



特別講演の
星野 仁彦先生

(一社)神奈川県作業療法士会 第4回定期総会 報告

—代議員制度対策委員会の設置や2012年度予算案などが可決—

平成24年4月15日(日)午後17時30分より、神奈川県臨床作業療法大会が行われた神奈川県立保健福祉大学講堂にて引き続き、第4回定期総会が開催されました。早速ですがその模様をお伝えします。

事務局長司会進行役が開会の辞の後、議長、副議長、議事運営員、書記、議事録署名人を総会出席者より選任、渡邊会長挨拶のあと、議事運営員より、総会成立宣言(議決権のある正会員総数:1711名、委任状数717名、出席正会員数54名でこの議決権の総数:771名で正会員数の3分の1以上の出席)及び議事運営案の提案があり、賛成多数で可決、審議に入りました。

審議は第1号議案～第6号議案について行われました。

- 第1号議案 2011年度(平成23年度)事業報告
- 第2号議案 2011年度(平成23年度)決算報告ならびに監査報告
- 第3号議案 一般社団法人作業療法士会公印管理規定の変更について
- 第4号議案 代議員制度対策委員会の設置について
- 第5号議案 2012年度(平成24年度)事業計画(案)
- 第6号議案 2012年度(平成24年度)予算(案)

特に第6号議案においては会場から「2014年のWFOTを開催する年は、第2回神奈川県臨床作業療法大会は開催しないのか?」(国際医療福祉大学小田原キャンパス:菅原氏)との質問があり、渡邊会長から「日本作業療法学会とWFOTを併会する為、第2回神奈川県臨床作業療法大会は行わない」が「県士会としてのWFOTに関する役割として、現在整理中だが、大会運営の一部と独立採算特別プログラム(懇親会など)は役割となっており、詳細は今年度具体化していく予定」「県士会でWFOTの積立金をしている理由は渉外活動や広報する為に使用したいが、出来れば県士会会員に対して、WFOTに参加援助を検討している」など答弁が行われました。

年々会員数も増えてきました。総会の成立条件がだんだんと厳しくなり「代議員制度対策委員会の設置」も承認されましたが、改めて総会の意義を考える一日でした。

「総会」というと毎年、「総会って何だろう…」と少し敷居が高い印象をお持ちの会員も少なくないと思います。私も以前そうでした。たいていその日も「総会」と聞くとすぐに退席していました。正直総会に参加しなくても、患者様の治療手技などを学ぶ研修会に参加

していれば当面事は足りていました。そんな私が何故総会に参加するようになったかと申しますと、臨床経験を積むにつれて「作業療法士の職域や方向性」などに悩んだりしたときに「総会で自分が所属する県士会の方向性」などを聞いていると十分臨床に役立つヒントがあるとわかったからです。ぜひ来年も総会に参加して下さい!ご出席頂いた会員の皆様、総会役員の皆様たいへんお疲れ様でした!!

総会役員	議長	友利 幸之介 (神奈川県立保健福祉大学)
	副議長	安部 剛央(衣笠病院)
	書記	小川 卓二 (横浜YMCA学院専門学校)
		三浦 美紀 (横浜YMCA学院専門学校)
議事運営委員		西尾 香苗(新戸塚病院)
		谷口 朋見(新戸塚病院)
議事録署名人		新沼 美希(屏風ヶ浦病院)
		斎田 浩彰 (湘南鎌倉総合病院)



理事・役員



渡邊会長のあいさつ

東日本大震災 被災地訪問レポート 「おらほさきてけらい〜」

神奈川県立保土ケ谷養護学校

本間 嗣崇

未曾有といわれた震災から一年。今年の3月11日前後には、連日多くのマスメディアが特集を組んで、震災当日やその後の日々のこと、そして現在の被災地の状況を伝えていました。去年の夏、OT協会の災害支援ボランティアや三連休を利用して、何度か被災地を訪れていた私は被災した方々の様子が気になり、インタビューなどの映像が流れるたびに、テレビ映像に見入っていました。寒い日が続いた今年の冬を、プレハブの仮設住宅で生活をされている方々は、どの様に過ごしているのかと気を揉む日も多くありました。そんな時に、「福祉避難所から仮設住宅へ転居しました」という報告とお礼の手紙をいただいていた夫妻の顔がふと浮かびました。そして「機会があったらお伺いしてお話ができないでしょうか」と不躰なお願いを手紙にしたため、ポストに投函。その日からちょうど一週間経った昼過ぎ、その奥様から「昨日手紙が届いだよー。気にしないで、体ひとつでいつでもけらい（おいで）」と私の元に電話がかかってきました。さっそく仕事帰りにチケットを取り、次の日の夕方から週末を利用して東北へと向かいました。

私が向かった先は、仙台市から車で1時間程の所に位置する、宮城県第二の都市、石巻。石巻市は美味しいお米や豊富な農作物だけでなく、新鮮な魚介類が年間を通じて水揚げされることで有名であり、

最近ではB級グルメの石巻焼きそばもお勧めのひとつ。また「仮面ライダー」や「サイボーグ009」の原作者である漫画家の石ノ森章太郎氏の「石ノ森萬画館」があることでも有名です（現在は震災により臨時休館中）。石巻は人々が温かくて、一度訪れるとまた行きたくなる、そんな街です。

話が逸れてしまいましたが、私に連絡をくださった夫妻は、その石巻市の山間部にある仮設住宅に暮らしていらっしゃいました。お宅を訪問すると野菜たっぷりの特製カツカレーを作ってくれてくださり、取材も快く受けてくださいました。そもそも夫妻と初めて出会ったきっかけは、私がお二人が入所されていたとある福祉避難所にボランティアとして派遣されたことでした。旦那様は20年来の片麻痺のベテラン選手で、震災前は時々車の運転をして、一人で買い物にも出ていたという行動派。震災直後の2ヶ月間は自宅があった近くの一般的な避難所で過ごし、その後奥様とともに福祉避難所へと移られたとのこと。最初の避難所での生活環境は、床にブルーシートと段ボールを敷いただけの簡素な造りで、自宅の改修済みのトイレでは排泄が自立していたのに、避難所では常時オムツを使用しなければならなかったとのこと。またその結果褥瘡ができてしまい、活動量は低下。最終的には寝たきり状態になってしまったそうです。その当時の様子を振り返って旦那様は「一言でいうと地獄」「杖と装具と靴がなくて歩けなくなって、脚も細くなってしまった」。また奥様は「全国から来た病院や介護士の方々に助けてもらってありがたかった」しかし旦那様の状態

としては「ベッドの上で座っていてもすぐに倒れてしまう状態だった」と話されました。その後、福祉避難所へと移った時の事は「障がい者用のトイレやベッド、段ボールの仕切りがあって、本当に別世界みたいだった」と。

その当時、石巻市の福祉避難所には、市立医療機関の看護師や地



仮設住宅外観：砂利の上に建設され、駐車場はアスファルト敷きというのが一般的。手前は談話室で、スロープは一部の棟に設置されている。



玄関前ポーチ：結露で引き戸が凍り、工事前はお湯で溶かして出入りしていたとのこと。（時には窓から出入りしたと…）

元の特別養護老人ホームの各種スタッフが常駐し、またそれと同時に宮城県土会や東日本大震災リハビリテーション支援関連10団体所属の作業療法士や理学療法士によるリハビリテーションが展開されていました。その様な環境下で旦那様は「少しでも早く身体が戻るように」と、日々数十分間の個別リハビリと集団での自主トレーニングに専念されていました。福祉避難所から仮設住宅へと移られた現在も週2回のデイサービスへと通われ、震災前の身体の状態

を100とすると今は「80%を超えるくらい」まで身体の調子は戻ってきたそうです。実際、仮設住宅では、日中は一人でトイレに行っているとのことでした。トイレ周辺を見せていただくと、居室からトイレまでの動線に家具類が手すりの代わりとして使えるように配置されていました。また仮設住宅に元々付いていた手すりの他に、トイレの内外に2本の新しい手すりを取り付けられていました。奥様に尋ねると、数週間前にリハスタッフによる家屋訪問が行われたそうです。福祉避難所から仮設住宅、ボランティアスタッフから地域のスタッフへと、生活の場面に合わせたリハスタッフによる支援が継続して続いていることを窺い知る事が出来ました。

お二人に現在の生活での困り感をお聞きすると、奥様から開口一番に出てきたことは「バスが少なく不便」ということでした。バス停は仮設住宅近くにあるのですが、午前午後あわせて6便しかないとのこと、通院や買い物などの用事を済ませてくるだけでも丸1日かかってしまうそうです。もともと徒歩や自転車で用事を済ませていた奥様にとってはその点が一番困っていらっしゃるようでした。また仮設住宅のハード面に対する不便さについても言及され、水道管が凍ってしまって家事やトイレができなくなってしまったこと、居室への隙間風のこと、玄関の入り口が凍って出入りできなくなったこと、床が全室カーペット調で和室暮らしであった夫妻にとっては過ごしにくかったこと、などを伺うことができました。それらの改善策として、昨年末に水道管への防寒対策や二重窓化工事、畳の設置などが行われ、3月に入ってから防風対策のための玄関前ス



お話を伺った夫妻



棚上の写真：福祉避難所を訪れた全国各地のリハスタッフとの写真が飾られていた。



トイレ前：仮設住宅の構造上、風呂トイレへのアプローチには段差がある。手前の手すりは後付けのもの。

ペースが設けられたことで、現在はだいぶ過ごしやすくなったそうです。一方ソフト面では、週に1回は社会福祉協議会の方が訪問に来て話を聞いてくれるので安心だとも話されていました。また仮設住宅の談話室に、NPOなどの方が来室してお茶飲み会や集団体操を実施したり、屋久島杉でネックレスを製作したこともあるそうで、お部屋には箱庭療法を行っている写真なども飾ってありました。奥様によると、仮設住宅に入居されている方々のうつや自殺、孤独死は少なくないとの事で、その点は今後も長期的な課題となると思われました。

一方旦那様の困り感は、やはりご自分のお身体のこと「前みたいに自由に歩けるようになりたい」と。また「もうちょっと暖かくなったら仮設の周りを歩きたい」と自主トレーニングにも意欲的で「怒らず、転ばず、風邪ひかず」を信念に今後もリハビリに励みたいと話されていました。取材後に夫妻から「部屋はいくらでもあんだから、泊まってったらいっちゃ。美味しい酒もあっから」とお誘いを受けたのですが、今回は宿泊地を手配していたため泣く泣くお断りさせていただきました。タオルケットで眠れる季節になったらまた顔を見せて欲しいとのことだったので、このニュースが自身の手元に届く頃、また石巻に足を運んでいるかもしれません。

皆さんも『週末に東北』なんていかがですか？それが観光であれ、ボランティアであれ、そこには皆さんが来てくれることを望んでいる方々がきっといるはず。被災地は復興に向けて、今も前へ前へと進んでいます。



OTのためのIT講座

第13回 OTのための情報セキュリティ(1)



講師
石川 敢也さん



松本 今回で、この連載も3年目ですね。



石川 そうですね。松本さんとの花見も3回目になりました。(笑)



松本 そろそろ読む方も慣れてきたと思いますので(笑)、この辺で少しまとめた内容というか、小難しいテーマを取り上げるなら今がチャンスかもしれませんよ。



石川 では、たびたび候補になりながら、そのままになっていた情報セキュリティに触れてみましょうか。



松本 いいですね～！情報セキュリティって、分かっているようで、実は分かってない分野かもしれません。分かったフリをして、なんとなく無事にやり過ごしているところもあるかも。(笑)



石川 さっそく、分かっているかどうかの基礎的な質問をひとつ。**情報セキュリティってなんですか？**



松本 えーと、なんですかって、情報の安全を守ることですね、例えば個人情報を公開しないみたいな…。



石川 そうですね、そんなイメージですね。教科書的な“正解”は、**情報セキュリティとは、情報の機密性・完全性・可用性を維持すること**なんです。



松本 うーん、そう言われてみると、そうだろうなとは思うんですけどね。



石川 ちょっと言葉が難しいですよ。機密性っていうのは、知る権限を持つ人だけが見ることができるところです。Confidentialityという英語を日本語にしたものですね。完全性は、情報が正確であり、勝手に書き換えられないように守られているということです。英語ではIntegrityです。三つ目の可用性とは、必要なときに必要な情報にアクセスできる状態になっていることで、これはAvailabilityの日本語訳ですね。どれも大事な要素なのですが、可用性に注目すると考え方を理解しやすいかもしれません。



松本 なるほど。情報を漏らさない、改ざんさせない、いつでも使えるようにしておくってことですね。可用性の大事さも私はよく分かりますよ！「あの資料の数字、今すぐ確認したいんだけど、棚のファイルのどこか、いや、引き出しの中だっけ…」なんてことはしょっちゅうあります。(苦笑)



石川 そうですね、紙の情報でいえばそういう話ですね。デジタルの情報だと、バックアップを保存しているから大丈夫だとか、検索ですぐに出てきたとか、パスワードで保護されているから安心だとか、インターネットでいつでもアクセスできると便利だろうなとか、あるいはパソコンでも携帯電話でも同じ資料を見ることができて助かったとか、そんなことも大事ですよ。



松本 なるほど、うーん、いろいろ考えることがありそうですね。



石川 組織として情報セキュリティを考えるときには、情報セキュリティの「基本方針」と「対策基準」、そして具体的な内容を詳細に決めてある「実施手順（規定集）」に分けて整理して考えるといいですね。**基本方針と対策基準を情報セキュリティポリシー**って呼んでいます。情報セキュリティポリシーは、社長などの代表者名で策定するべきもので、ウェブで公開している組織も多いですよ。



松本 言われてみればネット通販の会社のホームページでチラッと見たことがあるかもしれません。



石川 情報セキュリティポリシーの基本方針は「保有する情報資産の保護に努め、情報セキュリティに関する法令その他の規範を遵守することにより、社会からの信頼を得られるよう…」みたいな内容で、どこも似たようなものですね。



松本 知人のOTが働いている職場でも、たとえば施設のLANに私物のパソコンを接続しないとか、ダウンロードはどうだとか、マニュアルに決まりがたくさん書いてある、ということはよく聞きますけど…。



石川 …けど？



松本 CD-ROMとフロッピーディスクの利用は禁止って書いてあるけどUSBメモリは禁止とは書いてないとか、まあ、いろいろあるようです。(笑)



石川 文書を作った当時はUSBメモリが普及してなくて、そのままなのでしょうね。



松本 情報セキュリティについて、気をつけることがたくさんあるのは分かりました。で、なにからやればいいんでしょうか？



石川 まずは自分の身の回りの情報資産を把握しておくのはどうでしょう。



松本 情報が資産ってどういうことですか？



石川 これはちょっと難しい言い方ですけどね。**情報資産とリスク管理**については次回、詳しく説明しますね。



松本 おっ、なんだか連載記事みたいですね。(笑) 楽しみにしてま〜す！

著者紹介▶▶▶石川 敢也 (いしかわ かんや)

AFINAX代表。ISO 27001 (ISMS 情報セキュリティ・マネジメント・システム) 審査員補。都内の専門学校やカルチャースクールで「ITパスポート試験合格講座」などを担当。共著作品に「Excel & Word 完全解決!」(宝島社)、「インターネットから子供を守る!」、「初級シスアド対策問題集」(以上、ローカス)など。横浜市で理学療法士の妻1人と多数の熱帯魚に囲まれて暮らしている1968年生まれのア型。



♪W・卒業♪

今年でうちの息子は保育園を卒業です。5歳児クラスになってから卒園に向かって日々過ごしてきましたが、最近ではますます最後の保育園生活という思いが強くなってきました。昨年末には生活発表会で毎年5歳児クラスが披露する和太鼓をやりました。うちの息子が通っている保育園は1学年10人ほどの定員なので、同学年の子供も親もよく知っています。5年間（息子は1歳児クラスから入った）ほぼ毎日、親と過ごす時間より長く一緒に過ごしてきた友達との絆の強さを感じさせられた発表でした。どの子も自分の子と同様に小さい頃から成長を見てきた子ばかりで、そんなみんなが一生懸命に演奏する姿を見て発表の間は涙・涙・涙…。

子供との生活を振り返ると、母になったことの喜びと不安から始まった0歳、OT復帰後の慣れない育児と仕事と家事の目まぐるしい日々だった1歳、新しい保育園に入ってイヤイヤと噛み癖の激しかった魔の2歳、少しずつ育児が楽になってきた3歳、初めての制服を着て幼児クラスとなった4歳、保育園ママ友の和が広がった5歳、保育園の最長学年として立派なお兄ちゃんになった6歳。あっという間の6年間だったけれど、子供同様に大きく成長できた濃〜い6年間でした。

思い返すと、子供の歴史と私の母としての歴史はひよこ通信と供にありました。当時OT3年目（一年産休）で新米ママの私と赤ちゃんの息子を、卵からかえったばかりのひよこにかけて、ひよこが綴る通信としてひよこ通信が誕生しました。そんな私ももうすぐOT10年…。今回、子供の卒園を区切りにして、私もひよこ通信を卒業することに決めました。こ



れまで多くの皆様に支えられてここまで来ることができました。知り合いから「ひよこ通信読んでるよ〜。」といわれることが嬉しくて、こんな私の何気ない日常を切り取った記事を楽しんで読んで頂けていることが何より嬉しかったです。まだまだ未熟者の私ですが、これからも自分らしさを大事にして、OTとしても母としてもずっとずっと成長していきたいです！！いままで、本当にありがとうございました（^^）/。（文責：大宮）

★★女子会★★

日々の寒さも吹き飛ばすほど、毎日走り回る子供たち☆私がひよこ通信に関わって、早いものでもう2年半が経ちました。当初はまだ子供達もよく熱



を出したり、朝の準備・帰宅後から就寝まで、私は腰を下ろす暇もない生活でした。しかし、長女も6歳・次女が3歳ともなれば次女も善い悪いがわかるようになり、会話も楽しくなりました。

先日、保育園のママさん達と毎年恒例の新年会がありました。勿論土曜日の夜に居酒屋で開催！！1年に一回ということもあり、皆おおしゃぎで話もなかなか止まらず、久しぶりに美味しいお酒でした。時計を見ると11時！もうバスはない為皆で歩いて帰る途中も、「何だか学生の時みたい」と、個々の昔話にまたまた盛り上がり…。そう！女性はおしゃべりが大好きなんですよ（^^）P

以前長女の担任から「いや〜、よく女の子達は固まって、何やらコソコソ話していますよ」と言われたことがありました。長女に聞いてみるとか「1年生になったら皆で駄菓子屋へ行く約束をしたの」と、とても嬉しそうに話してくれました。小さいながらも女子会を開いているんだな〜と驚いたり、約束事も好きなんだな〜と新たな発見でした。

幼児世代、私の世代と女子は話好きですが、仕事の時にも『女子会』を感じることがありました。それは、10名以下で80代90代の女性の方との集団体操を行なった時のことです。いつものように日付の確認や今日の出来事を話していると、ある方がうなずきながら話を始めました。ちょうど良い人数なのか入所の方々と話が盛り上がり、またある方からは「この時間におもいきりしゃべるの楽しみなの」と話されていました。やっぱり女性は話好き？（笑）なんて思ってしまいました。今年の4月から長女は小学生です。お昼寝のない日も保育園で始まり、そんな日は決まって夕食でウトウト。でもお姉さんになる楽しみの方が大きいようで、小学生に向けて日々頑張っている様子が伝わってきます。そして長女が学校に上がるにあたり、家族で他県に引っ越すことが決まりました。今回のひよこ通信が最後となりますが、ひよこ通信も貴重な時間でとても楽しめました。今までありがとうございました。

（文責：海出）

各部からの報告

教育部

県士会ウェブサイトから質問ができます！

今年度最初の「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」です。

今春作業療法士国家試験に合格、就職された方、おめでとうございます。迎えた側の方も業務拡大や充実に向けて新たに動き始めたところではないかと思えます。

さて、このコーナーは、県士会教育部関連の情報をご案内していきます。教育部はOT協会の生涯教育制度に関する事業を主に展開しています。その情報はこの県士会ニュースと県士会ウェブサイトを通じて発信されますので、しっかりアンテナを張っておいってください。

今号では、今年度の生涯教育制度関連の研修会をご案内いたします。

1. **現職者共通研修**：全10テーマ、生涯教育制度の必須基礎研修
2. **現職者選択研修**：領域別（身体・老年期・精神・発達の各障害領域）の生涯教育制度必須基礎研修で、毎年2領域開催
*神奈川県士会では、一年間で2つの必須基礎研修が修了できるよう企画、開催しています。
*7月号以降の県士会ニュースにて開催情報を順次ご案内します。
3. **事例報告登録制度研修会**：事例報告登録は認定作業療法士申請に必須です。OT協会学術部のご協力により開催（予定）

その他、研修会等参加証明書、県士会の役員や部員・委員などの県士会裁量ポイント、「作業療法」掲載論文・事例報告登録制度への登録事例等のポイント化手続きは県士会にて随時受付中です。なお、基礎研修修了、認定作業療法士、専門作業療法士の申請はOT協会です。ご不明の点はお連絡ください。県士会ウェブサイトからも質問ができます。

教育部 奥原孝幸（昭和大学作業療法学科）
045-985-6500（代）、kyoiku@kana-ot.jp

ウェブサイト管理委員会

○スマホに対応！

よこ太：ふお!? ほ!? ふお!? ほお!?

ハマ子：珍しく真面目な顔だね。

よこ太：スマートフォンってさ、何て略す?

ハマ子：「スマホ」でしょ。

よこ太：おかしいよね。略すなら「スマフォ」でしょ。

ハマ子：まあね。でも「ホ」の方が親しみやすいじゃん。

よこ太：ぼくは納得できない！レイザーラモンHGさんに「スマ・フォー」の普及を依頼する！

ハマ子：(-_-) ...そう言えば、あんた持ってんの？

よこ太：ううん、5年前の折りたたみ。

ハマ子：なんで、「ホ」とか「フォ」で悩むのよ!?

よこ太：知らないの？県士会サイトが「スマフォ」

に対応したんだってさ。

ハマ子：知ってるわよ。帰りに毎日「講習会情報」と「求人情報」を確認してるもん。

よこ太：なんで「求人情報」も確認するんだよ！

ハマ子：あっ...えーと、皆さん！「講習会情報」と「求人情報」のページがスマートフォンに対応したので、ぜひ行き帰り等にチェックしてください！

よこ太：家では、PCで他のページも閲覧してくださいね！

（文責：ウェブサイト管理委員会 作田）

平成24年3月アクセスランキング

- 1位 作業療法Tips & PDF 14623件
- 2位 講習会・研修会 11435件
- 3位 求人情報掲載板 9924件
- 4位 必見！OTのすごい技・アイデア集 4730件
- 5位 月刊よっしゃーワールド 2051件

平成24年3月県士会ブログランキング

- 1位 ウェブ管的知恵袋 1285件
- 2位 Hideki Tanaka's blog 499件
- 3位 KAOT社会保障制度委員会 474件

更新件数：50件 訪問者延べ数：14625人

Kanaからの手紙発行回数：31回 登録者：165名

Twitter (ID:kaotwebkan)：フォロアー179名

地域リハビリテーション部

○《今年度の研修会案内》

- ①生活行為向上マネジメント講習会
6月3日(日)開催
- ②第2回神奈川県訪問リハビリテーション地域リーダーミーティング
6月17日(日)開催
- ③第3回訪問リハビリテーション実務者研修会
8月18～19日予定
- ④第2回OT・PSW合同研修会
9月2日予定
- ⑤第1回訪問リハセミナー 未定
- ⑥コミュニケーション支援講習会 未定

予定・未定のは決定次第、ウェブサイトに掲載いたします。

今年度も多くの会員の参加をお待ちしております。

《訪問リハ実施施設の掲載》

既にご存じの方も多いと思いますが、県士会ウェブサイト「地域リハの“わ・輪・和”」というコンテンツを掲載しています。

その中に、“訪問作業療法実施施設”をみなさまの協力のもと掲載いたしております。

今年度は更に作業療法士の所属施設のみではなく、理学療法士や言語聴覚士の所属施設も掲載いたします。

みなさまから投稿いただけるように只今準備を整えております。

神奈川県民への有益な情報源ですので、すでに掲載済みの施設および未だ掲載していない施設の方々には是非ともご協力をお願い申し上げます。

（地域リハビリテーション部 木村）

地域リハビリテーション部

地域リハ推進班

シリーズ「認知症の作業療法」 ベテランOTへの インタビュー

経験豊富な先輩から聞く「認知症の作業療法」インタビュー。地域で若年認知症のサポートに携わる、東京都作業療法士会所属の比留間先生のインタビュー後半をお届けします。

比留間ちづ子先生 プロフィール

東京女子医科大学病院リハビリテーション部に作業療法士として36年勤務後、特定非営利法人 若年認知症サポートセンターの設立に関わり副理事長を務める。2007年より平成19年度厚生省補助金事業として若年認知症社会参加支援センタージョイントを創設し、現在、所長兼作業療法士として活動中。日本病院・地域精神医学会理事／事務局長、日本障害者協会理事／国際担当。日本作業療法士連盟副会長。

若年認知症社会参加支援センタージョイント

※H24年4月～ 住所が変わりました

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4中公ビル御苑グリーンハイ
ツ605号

TEL：03-5312-0644 FAX：03-3341-7144

joint.tomorrow@gmail.com



若年認知症社会参加支援センタージョイントとは

若年認知症本人のはつらつとした生活への復帰を目指した就労型活動・地域貢献活動の拠点として、週2回（午前10時～午後3時）の活動を実施している。メンバーは現在男性8名で、都内、神奈川、埼玉など各地から参加している。スタッフは専任（専門職）4名とサポーター。

活動内容は、折込発送、絵葉書・カレンダー作成、絵画、工芸、イベント援助、公園と道のサポーター、地域交流、地域行政との渉外、企業訪問、講演講師、取材対応などが中心。

※インタビュー当日は、以前シェフをしていたメンバーが、2日前から煮込んで用意してくれた特製カレーライスを、皆さんで美味しくいただきました。

若年認知症の作業療法 vol.2

若年認知症社会参加支援センタージョイント

所長／作業療法士

比留間ちづ子 先生

—なぜ、比留間先生は、若年認知症の方の支援に携わるようになったのでしょうか？

<OTとして当たり前のこと>

病院勤務の頃に、厚生労働省から、高次脳機能障害の方が生活にどのように困るのかを調査したいという相談がありました。その頃はまだ、高次脳機能障害が現在のように分類されておらず、頭部外傷も、内科疾患が引き起こす認知機能障害も、認知症も、すべてが一緒くたに捉えられ、十分な対策も講じられない状況にありました。その後、モデル事業等を経て、頭部外傷等による高次脳機能障害者の生活支援事業が制度化されると、対策としてとり残されたのは、進行性アルツハイマー病による若年認知症の方々となりました。症状としての差別感はないにも関わらず、若年認知症の方々に対しての対策は、全く進んでいないという現実と直面したのです。当初はモデル事業の一環として、若年認知症の方々の生活支援に関わりはじめました。もちろん、家族会からの要望があったことも強い後押しとなりました。

対象者の機能の賦活を目指してOTが関わるということは、ごくごく当たり前のOTの仕事であり、若年認知症を特別視したものではありません。“若年認知症の方”ではなく、目の前にいる“疾患と生活障害をかかえる一人の対象者”にOTとして関わっているだけのことなのです。今はたまたま、対策が遅れている若年認知症の方々の生活支援に関わっています。OTとして特別なことをしているのではなく、ごく当たり前の流れとして、今に至っています。

—非常に明快で興味深いお答えをいただきました。OTとして常に「当たり前のこと」をしていたら、今に至ったのですね。

—次に、「地域」における評価や支援について教えてください。

「地域」ということはそれほど意識してはいません。むしろ、「暮らし」をいかに評価するかが重要だと考えています。ADLひとつであっても、家の中でのみでする訳ではありませんし、そもそも生活とはADLのみではありません。家の中の活動を中心と

した評価で、本当に妥当性があるといえるでしょうか。社会との接点の中でその方がどう動けるか、という「社会の中での評価」が非常に大切なのです。暮らしの場に軸足を置き、社会の中で評価し、社会の中で具体的な生活支援をしていくこと、それこそが「地域における評価や支援」だと考えています。

一若年認知症の地域支援に関わるOTはまだ多くはありません。今後、若手OTがそのような分野で活躍することも期待されます。日々の臨床活動で養うべきことについて教えてください。

＜事例を深く掘り下げていくこと＞

私は病院勤務の頃、新人や後輩たちに「担当ケースについてのショートブリーフを作りなさい」と指導していました。ショートブリーフとは、担当ケースの現状だけでなく、OTとして何を問題と捉えているのか、何に悩んでいるのかも含めて書き留めるものです。「書く」という作業を通して、ケースについての評価や情報を統合することができます。また、ケースに向き合う自分が、今何を考え、何をしているのかを振り返り、ケースを巡る問題を構造化する手助けとなります。

類似するケースに出会った際には、過去のショートブリーフを見返し、以前の自分はどのようにに関わり、何ができて、何ができなかったのかを振り返ります。それによって、今向き合うケースに対するよりよい関わりを見出したり、自分自身の技法やケースとのやりとりについて、解析する手助けとなります。

一人ひとりのケースは違いますし、生活とは、とても複雑なものです。世の中には様々な評価表がありますし、その項目を埋めていくことは誰にでもできるでしょう。でも、それだけでは、「その方の暮らし」は捉えきれません。数値だけでは見えないことを知るためには、事例を記述的に捉え、一つ一つの事例を深く掘り下げていくことが大切だと思います。

＜人と人のやりとり～連携力＞

最近では、電子カルテ化などによって、担当者間での情報共有が容易になったと言われていますが、本当にそうでしょうか。電子カルテに書かれる情報は表面的になりがちで、本当の意味で必要な情報をまとめ、伝達できているかは、常に疑問を持つべきだと感じています。

担当者が実際に顔を見て話し合い、やり取りしていく中でこそ、新たに見えてくることも多くあります。皆さんは、職場で毎日どのような連携をしているのでしょうか。今、職場の中で実際にしている人とのやりとりこそが、地域支援の現場における連携にも活かされると思います。病院の中では、決められ

た職員とのやりとりが多いと思います。しかし、地域では、その方に必要な地域のつながりを、一から作り上げることを必要とされ、その度に新しい分野でのコンビネーションが生まれます。日々の職場における連携力を磨くことがとても大切です。

＜障害の構造化＞

認知症に対して「ボケ」という表現が使われた時期もあります。私は、その一言の中にすべてを一緒にくたにしてしまったことが、一番大きな問題だと考えています。整理して中身をよく見ていくと、使える能力や磨けば光るものが多く残っているのに、整理されず見逃されてきた部分が多かったのだと思います。認知症も他の疾患・障害を抱える人と同様に、障害を構造化し、アクティビティをしっかりと評価していくことが、その方の“できる部分”を支える支援の基本となります。しかし、これは決して表面的なことではなく、その方の生き方・信条といった部分までも含めて理解し、整理していくべきことです。

その方が、迷うことなく生活を送ることが出来れば、随分と生活の様子も変わってくるものです。そのためには、作業頻度や環境設定を工夫したり、本人が混乱や悪い反応をださなくて済むような「最低限の活動の流れ」を作っておく必要があります。OTの得意とする「障害の構造化」が、そういった場面でもっともっと活かされると思います。

一若年認知症だからと特別視するのではなく、私達がOTとして当たり前に行っていることを軸に、関わっていけばよいですね。

一神奈川県士会は、比較的経験年数の少ない会員が多く在籍しています。比留間先生から、若手OTへのメッセージをお願いいたします。

＜まずは知識、そしてOTとして当たり前の仕事を＞

まずは、認知症の医学的知識を把握することが必要です。医学的な知識を元に分析し、心理面の影響であったり、その方の生活パターンを歪曲させたり、生活の幅を狭くしている、その方の「生き辛さ」というものに向き合う必要があります。これは誰が取り組んでもよいのです。もし、皆さんがOTとして取り組むのであれば、これだけは忘れないでください。若年認知症は「特別」ではありません。当たり前のOT対象者として、疾患・障害をしっかりと分析し、プログラムを立て、淡々とOTとしての仕事をしてください。

一比留間先生、貴重なお話をどうもありがとうございました。

(文責：河村)

理事会 報告

平成24年度 第6回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成24年3月15日(木)19:00～21:10 場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：佐藤、錠内、奥原、木村、小峰、作田、鈴木、中西、野々垣、原、澤口

委任理事：渡邊、錠内、浅井、三浦、机、富山 出席監事：清宮、長谷川

その他：沼田（福祉用具委員会）、佐藤（良）（第14回県OT学会）、松本（広報部）、大郷・渡邊（事務局書記）

●第14回神奈川県作業療法学会実行委員会（代読：佐藤良枝）

1) 実行委員会組織図について（資料回覧）

実行委員会は4回開催。次回は4月12日予定。会計担当は渉外部の出口弦舞、広報部会計は杉本尚久。

2) 学会予算案について（資料回覧）

参加者400名で算定。参加費はこれから検討していく。→賃借料は安くならないのか、予算が足りなくなった場合、現段階で補正予算は組めない⇒持ち帰り要検討となる。

●平成24年度予算案について審議（財務部：野々垣理事）

提出された平成24年度の予算案では収支の差額が68,419円のマイナスとなっており、現段階では事業予備費がつかれない。例年通りとするならば100万円程度必要。平成23年度の研修費収入が予算案より少ない状況であったが、会場の都合や開催数、会員数の増減等を垣間見ても引き続き次年度も増やすことは難しいと思われる。各部で予算案の見直しをしてほしい。

（中間意見）今まで単年度決算を重視していなかったことが問題。収入に対して事業を広げすぎた。削減するのであれば手を付けやすい学会助成を大きく減らし、残りを各部で減らしてはどうか。非営利団体であるため予算をしばっていかないといけない。削減は一律で行うべき。

（最終意見）学会の助成金を減らすことは考えても良い。会議費も少し減らすことが出来るのでは。地域リハ部は執行率が少ない。削減目標の1/5は検討できる。研修会の謝金規程（新規約）の施行を再度延期しても良いのでは。例えばOTRへの謝金を旧規程にすると提案の1/2に削減できる。教育部は5万円程度なら可能と思われる。事業準備積立金を見直してはどうか。現在、WFOT・事務局・退職金の積み立てとして各10万円。これを削減できれば各部の削減も小額で済む。

（結論）→県学会費：150万円から120万円へ（30万円削減）→学会助成金：50万円から30万円へ（20万円削減）→WFOT積立金：10万円から0円へ（10万円削減）→講師謝金：今年度と同様とする。金額の詳細は各部で検討→その他：各部で5%程度の見直しを行う⇒これで100万円の事業予備費を捻出する。余った分は補正予算へ回す。⇒各部の検討結果は3/24までに財務部へメールする。新規予算案の承認はメールにて行う⇒承認

●事務局（澤口事務局長）

1) 渉外関連

・医療専門職連合会（通常総会及び市民公開講演）

日時：H24/3/28 18:30～ 場所：横浜イーストスクエア3階 中外製薬株式会社横浜支店会議室（JR横浜駅）

通常総会：平成24年度事業計画案に関する件／平成24年度予算案に関する件／平成24年度役員・代議員等の選任

学術講演会：「2012年度診療報酬改定について～その特徴や流れ・今までとの違いについて～」

講師：中外製薬株式会社渉外調査部 森 富浩 先生
⇒司会：OT士会（渡邊会長）、代議員出席：OT士会三役
⇒欠席の理事は委任状を提出すること

2) 自治体等からの県士会会員派遣・推薦依頼について
・障害者自立支援法における市町村審査会委員の推薦依頼（平塚市）

委嘱期間：H24/4/1～H26/3/3 推薦人数：1名

※切：2/17 ⇒事務局にて片野寛人（高根台病院）を推薦。

3) 諸団体からの周知依頼について

・第12回東海北陸作業療法学会・第25回静岡県作業療法学会開催周知依頼⇒web・県士会News掲載依頼済み
開催周知依頼⇒web・県士会News掲載依頼済み

日時：H24/11/10～11

会場：県コンベンションアーツセンター グランシップ
テーマ：作業療法士の現場力

・県社協より「かながわともしびセンター自助具展示・相談業務」の終了について（通知）

県民センター13階において本会が運営していた「自助具展示場」は平成24年3月末日にて展示・相談業務を終了。平成24年4月からは県民センター13階「かながわ工房」においてボランティアによる自助具グループが立ち上がり、同工房の運営を引き継いでいく予定。同工房での製作活動と併せて、地域での製作体験などを通じて自助具の普及に引き続き努めていく。

【今後の予定】

#H24/3/1(水)～3/31(土)

随時、展示契約物品の搬出は予定しているが、相談業務は継続

#H24/4/3(火)～H25/3/30(土) かながわ自助具工房は、火・木・土曜日の開館を予定（現行のまま）

4) 後援名義使用依頼 →すべて承認

・第6回かながわお口の健康フォーラム

主催：青葉区歯科医師会

日時：H24/7/1 11時/13時開演

場所：青葉公会堂（横浜市青葉区）定員：各600名

テーマ：「未来をかえるお口の健康事情」

午前の部：「NHKワンワンと遊ぼうショー」ワンワンと歌のお姉さんダンサー2名によるショー40分

午後の部:講演会・演者 村上一雄(筑波大学名誉教授)、
宝田 恭子(日本アンチエイジング歯科学会常任理事)、
若林健史(日本臨床歯周病学会常任理事)、和泉雄一(東京医科歯科大学教授)

・第21回在宅医療・介護セミナー後援と周知依頼

主催:神奈川県保険医協会

日時:H24/5/13 10時~16時

場所:横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

規模:250名前後 参加費:医師、歯科医師2,000円

その他1,000円

参加対象:医師、歯科医師、医療・介護職、一般他

テーマ:要介護者の重度化にともなう「医療的ケア」への理解と対応

基調講演:杉山孝博(川崎幸クリニック 院長)

シンポジウム:八田氏(厚生労働省老健局老人保健課)、

鈴木麻利子(特別養護老人ホーム クロスハート栄 介護福祉士)ほか2名(看護師・介護職を予定)ディスカ

ッション:司会 杉山孝博(川崎幸クリニック 院長)

5) 渉外関連

・(社)かながわ福祉サービス振興会創立15周年記念式典出席依頼

*本年3月で法人設立15周年。本年4/1~公益社団法人へ移行

日時:H24/3/15(木)午後3時より

場所:ロイヤルホールヨコハマ

→業務による欠席のため祝電での対応とする

・「2012春のかながわレッドリボン月間」の実施及び本協議会への総会ご臨席依頼 主催:神奈川県エイズ対策推進協議会

(事務局:県保健福祉局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ)

日時:平成24年3月26日(月)13時受付

場所:神奈川県本庁舎 3階講堂→長谷川監事が出席する

6) 外部からの事業協力依頼

・東京都士会より「第11回子供の福祉用具展2012(キッズフェスタ・アンダー18)」(東京都士会後援事業)のご案内とご協力依頼

日時:H24/4/28~29 両日ともに10時~17時

会場:TRC東京流通センター第一展示場

主催:子どもの福祉用具展実行委員会

後援:(一社)東京都作業療法士会

→福祉用具委員会にて対応※紙面の都合で以下、並びに一部割愛しています…詳細は県士会Webをご覧ください (文責:澤口)



求人

作業療法士・理学療法士

楽しみながらリハビリが行えるように、セラピストの方々の意見を尊重します。

募集人数 2名

資格 作業療法士

勤務内容 リハビリ

勤務時間 9:00~18:00(常勤) 9:00~15:00応相談(パート)

休日 日・祝・その他シフトによる休み・年末年始・夏休み(年間休日124日)

待遇 社員221,000~280,000円+賞与夏1.5ヵ月、冬2ヵ月、パート時給2,500円

勤務地 横浜市南区睦町1-8-3

概要 デイサービス

応募方法 電話またはメールにてお願いいたします。

むつみの家

連絡先:045-743-6588

担当:管理課 加藤

メールアドレス:kato@clinic.or.jp

URL:http://www.clinic.or.jp



求人

作業療法士 募集

募集人員 若干名

就労期間 即日~平成25年3月31日

応募資格 作業療法士免許を有する方

待遇 非常勤職員としての雇用です

給与 本市規定による 1864円/時給

手当 交通費相当分支給

勤務時間 8時30分~17時15分

※頻度・時間等は相談に応じます

休日 4週8休制(土曜・日曜勤務有り)

応募方法 電話連絡の上、面接をいたします。

履歴書・免許証の写しをご持参ください。

※まずはお気軽にお問い合わせ下さい

横浜市立脳血管医療センター

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-1

TEL 045-753-2791(直通) FAX 045-753-2905

リハビリテーション部 遠藤まで

Eメール:by-ysbckanrika@city.yokohama.jp

http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/nou



研究会

かなりけん事例検討会

主催 神奈川県臨床精神科作業療法研究会（かなりけん）
日時 平成24年7月7日(土)13:00～受付
 13:30～16:30
場所 ウィリング横浜（京浜急行線、横浜市営地下鉄線「上大岡」駅 徒歩3分）
 ＊研修室は当日掲示します。
内容 事例検討会です。
 事例提供者 県内精神科病院勤務 作業療法士
 指導者 鶴見隆彦 氏（作業療法士 厚生労働省）
 対象 どなたでも参加可能です。
参加費 1,000円
定員 40名
申込み方法
 事前に下記までご連絡をお願いいたします。
 折り返し、確認の返信をいたします。
 返信がない場合、サーバではじかれてしまった可能性がございますので、担当者の所属先までご連絡をお願いいたします。
 ご多忙で事前連絡が難しい場合、当日参加も可能です。
申込み締切 締め切りは設定しておりません。
生涯教育ポイント
 当研究会は認定団体です。参加証明証を発行いたしますので、後日申請をお願いいたします。
備考
 当研究会は勉強だけでなく、施設間のつながりの強化も目的としております。
 研究会の終了後に交流会を企画しておりますので、お時間が許す限り、ご参加ください。

問い合わせ
横浜リハビリテーション専門学校 三川年正
Mail tmikawa@iwasaki.ac.jp
TEL 045-826-7553



講習会

第36回日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG講習会 in 福岡

日程 2012年8月21日(火)～22日(水)
主催 日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG
共催 一般社団法人日本車いすシーティング協会
会場 国際医療福祉大学 福岡天神キャンパス
 〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜1-3-
定員 下記講習内容参照（先着順）
参加費 12,000円・14,000円・16,000円・20,000円
 （加盟団体等により異なります）
内容（コース選択制）
 ■どっぷり疾患・障害別対応コース（定員50名）
 ■どっぷり体験コース（定員50名）
 ※社団法人日本作業療法士協会「生涯教育制度」基礎ポイント
 対象研修会（予定）
申込締切 7月13日(金)（定員になり次第受付を終了させていただきます）
 ※講習会情報詳細を6月中旬頃、下記ホームページに掲載後、
 受付開始予定です。申込書をプリントアウトの上FAXにてお
 申し込みください。なお参加費は事前振込制とさせていただきます。
 申込書受理後参加費請求書をお送りいたします。

問い合わせ
車いすSIG講習会事務局
〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田2-7-20
担当：深野栄子
TEL. 045-353-8364 FAX. 045-353-8365
<http://www.wheelchair-sig.jp>



講習会

第12回東海北陸作業療法学会 （第25回静岡県作業療法学会同時開催）

会期 2012（平成24）年11月10日(土) 13:00～18:00
 11日(日) 9:30～16:00
会場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
 静岡市駿河区池田79-4 電話054-203-5710（代表）
テーマ 「作業療法士の現場力」
企画内容
【1日目】11月10日(土)鼎談（ていだん；3人の講師による座談会）
 13:30～15:00
 ●澤 俊二 氏（藤田保健衛生大学）
 ●熊谷 範夫 氏（静岡リハビリテーション病院）
 ●町田 由美子 氏（NTT東日本伊豆病院）
〔特別講演〕西川 勝 氏：
 大阪大学コミュニケーションデザインセンター 特任教授
 ●臨床哲学、看護、認知症ケアなどの介護の現場で活躍。
 ●著書「ためらいの看護」
【2日目】11月11日(日)
〔教育セミナー〕09:30～11:00
 ●身障分野 玉垣 努 氏（神奈川県立保健大学）
 ●老年期分野 谷川 良博 氏（東郷外科はつらつデイケア）
 ●精神分野 香山 明美 氏（宮城県立精神医療センター）
 ●発達分野 高橋 知義 氏（こぐま学園）
〔公開講座〕14:00～15:30
 向谷地 生良 先生：
 北海道医療大学教授、べてるの家理事
 ●べてるの家設立、当事者研究。
 ●著書「技法以前」「退院支援、べてる式」など
 演題発表（口述・ポスター）1日目、2日目
 その他 福祉機器等展示・作品展示など
大会HP <http://toukaihoukoku.kachoufuugetu.net/index.html>



講習会

若手療法士のためのシーティング入門 ～座位の運動学と評価方法～

主催 療法士.com
日時 2012年7月28日(土)10時～16時30分
場所 ぽっぽ町田 会議室
内容
 木之瀬隆先生を講師にお迎えしてのシーティング入門セミナー。豊富な臨床経験や研究データをもとに、座位の運動学と評価方法を中心に、臨床的なケーススタディを織り交ぜながらの、シーティング入門に相応しい充実の内容。
 ●講師
 木之瀬 隆 先生
対象 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など
参加費 2012年6月28日まで10,000円（以降は12,000円）
 ／100名
定員 100名
申込み方法 療法士.comにて受付
<http://ryouhou.com/modules/column/ryouhou.com-planning/seminar-2st.html>
申込み締切 2012年7月26日
生涯教育ポイント なし

問い合わせ
info (@) ryouhou.com
042-350-8885

今年も開催!!

ヨコハマ ヒューマン & テクノランド 2012

福祉を支える人とテクノロジーの総合展

日程 2012年
7月27日(金)-28日(土)
各日10:00~17:00

会場 **パシフィコ横浜 展示ホールD**
JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車、みなとみらい線「みなとみらい駅」下車

入場無料

主催 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団
<http://www.yokohama-rf.jp>

共催 パシフィコ横浜
横浜市健康福祉局

最新情報 詳しくは、ホームページをご覧ください。
<http://www.yotec.jp>

yotec ユーザー名「yotec」で、twitter(「ツイッター」)やっています。
みなさんとながりたいです! フォローしてくださいね!

twitter



自立を支援する最新機器の体験や



自立を支援する旅行の紹介や



自立を支援する遊具の紹介をします。



YRS
ユアーズ

社会福祉法人
横浜市リハビリテーション事業団

foundation for
Yokohama Rehabilitation
Services

あなたらしい笑顔のために

連載

青年海外協力隊体験記

～大草原の小さな私～

第8回 種を蒔く

青年海外協力隊 平成23年度2次隊 川島由貴子



●執筆者プロフィール

川島（旧姓 堤）由貴子

大学卒業後一旦就職するも、退職。その後作業療法士資格を取得し、都内の病院へ3年間勤務する。平成23年9月より協力隊員としてモンゴルに赴任。現在、首都ウランバートルの国立外傷センターにてPT隊員と共に活動中。

ウランバートルは都会である。そんな中で朝から夕まで週5日、病院で仕事をしていると、日本にいるような錯覚に陥る。そして、「あれ？私はどうしてここにいるんだっけ？」と余計なことを考えてしまう。私が抱いていたボランティア像と現状は大きくかけ離れている気がする。これならわざわざモンゴルまで来なくても、日本で働いていた時と大差ないじゃないか！と。もちろん、モンゴルに少しでも役に立っていればいいじゃないかという気持ちもあるけれど、本来自分がやりたかったことだってやりたいし、成長したい！という思いもある。

もともと、協力隊を受験する時の希望は、小規模の地域、グループに深く入り込んで活動することだった。なぜなら、なによりそういう活動に興味があったし、何かのプロジェクトの一員として動くならまだしも、一人のボランティアで、期間は2年という条件付きではできることは限られているので、自分の力がより発揮しやすいのは小規模グループの中だろうという考えもあったからだ。現在私が働いているような国立の大規模な機関などは、例えば病院なら院長や科長、学校なら校長のような、そこでの権力者が援助の必要性を感じてボランティアを要請していることも多い。だから、実際活動を始めると、科長からの希望は出てくるけれど、実際に現場で働いている人たち本人からの希望はあまり出てこなかったりする。私の配属先でもその傾向はあり、現場で働いている人は受け身的である。私の胸の中では不協和音が消えない感じがある。それが悪いと言っているわけではないし、何かのきっかけでそれが変わる可能性もあると思う。そして、今の病院がつまらないというわけではなく、病院でもや

りたいことはたくさんある。マンパワーとなりつつ、OTとは何かをスタッフや学生に伝達し、技術移転、定期勉強会、ホームプログラムの作成もしたい。この中から開始しているものもあるけど、どう展開して、どう根づかせるか。これは長期戦でやって行きたいと思っている。

一方で、やっぱり地域に根差すような活動もどうしてもやりたい。地域で当事者が自ら必要だと感じて作られた団体は、もともと意識も高い。自ら、こちらへどんどんコンタクトもとってくるし、要望も明確、一緒に活動していて楽しい。

モンゴルに来てから、ソーシャルワーカーや養護等の関連分野のボランティア、日本の柔道整復師の方たち（モンゴルには日本柔道整復師会が会のプロジェクトとして積極的に関わっている）、モンゴルのPTの学生などと関わるようにし、セミナーやイベントにはなるべく顔を出し、種を蒔いている。まずは、モンゴルの社会資源を制度や公的機関はもちろんNGO、NPOなどの団体を含め、把握していつている段階。そんな中、先週、障害者の親の会の方から一件、訪問で養護教育をやっている方から一件、二件の電話。少し蒔いた種から芽がでようとし始めている予感です。

今、モンゴルにいるリハビリ関連職はPTだけ。養成校もPTだけ。やっぱり、モンゴルにもOTが必要！って思ってもらいたい。みなさん、モンゴルに遊びに来てくださいね！OTの種を蒔きましょう！

おまけ：モンゴル語のあいさつ

サイハン アムラーライ！

おやすみなさい、よく休んでね、の意味。気遣いの言葉です。今日のリハビリ、ちょっとハードだったかな？って時なんかに。

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース < 155号 > 2012年5月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 小峰一宏

編集担当 松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・矢野竜也・川島由貴子・本間嗣崇

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号 TEL/FAX：045-663-5997 月火水木金 10：00～16：00 メールアドレス：jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.jp>

作業療法 神奈川

検索